豪州準備銀行は12会合連続で政策金利を据え置き

- 豪州準備銀行(RBA)は12会合連続で政策金利を据え置き。ロウ総裁は中立的な金融政策姿勢の継続を示唆。
- RBAは「最近の指標は豪州経済が来年に向けて緩やかに持ち直すという経済見通しと整合的」との景気判断を示す。
- RBAは賃金上昇率の弱さや高水準の家計債務が今後の個人消費を抑制する可能性があると指摘。
- 今後、底堅い雇用増や企業収益改善が賃金上昇に波及し始めれば、将来の利上げに向けた地ならしが進む可能性。

RBAは12会合連続で政策金利を据え置き

豪州準備銀行(RBA)は9月5日の金融政策理事会で、政策金利を1.50%に据え置く決定を下しました(図1)。RBAによる政策金利の据え置きは、2016年9月以降、12会合連続となりました。

フィリップ・ロウRBA総裁は声明文において、従来通りの中立的な金融政策姿勢の継続を示唆しています。

経済指標は今後の景気回復と整合的との見方

ロウ総裁は、「最近の経済指標は豪州経済が来年に向けて緩やかに持ち直すというRBAの経済見通しと整合的である」との景気判断を示しました。声明文では、①非資源セクターの設備投資見通し改善、②高水準の企業景況感、③活発な住宅建設活動、④小売売上高の持ち直し、などの点に言及がなされました。

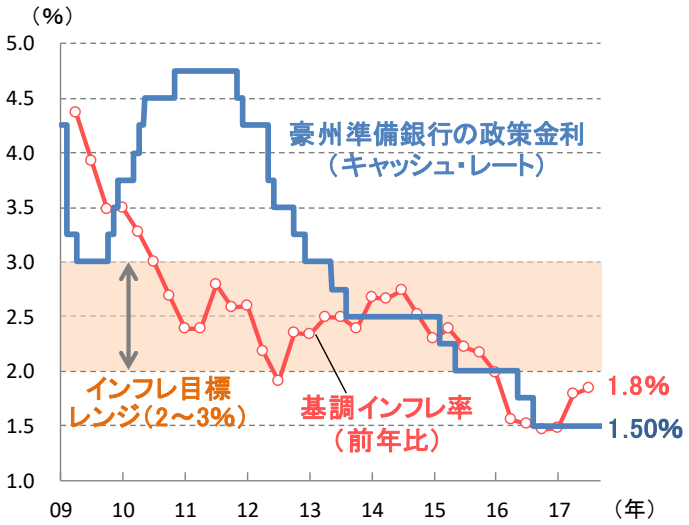
もっとも、RBAでは賃金上昇率の弱さや高水準の家計債務が今後の個人消費を抑制する可能性があると指摘するなど、引き続き賃金や家計債務の動向を注視する姿勢を示しています。

今後は雇用増が賃金上昇に波及するかが焦点

前者の賃金動向に関しては、RBAは「低い賃金上昇率は当分の間は継続する可能性がある」との従来通りの見通しを示しながら、今回の声明文では「労働市場の堅調な環境は時間の経過とともに賃金上昇率の高まりに繋がるだろう」との一文が追加されました。

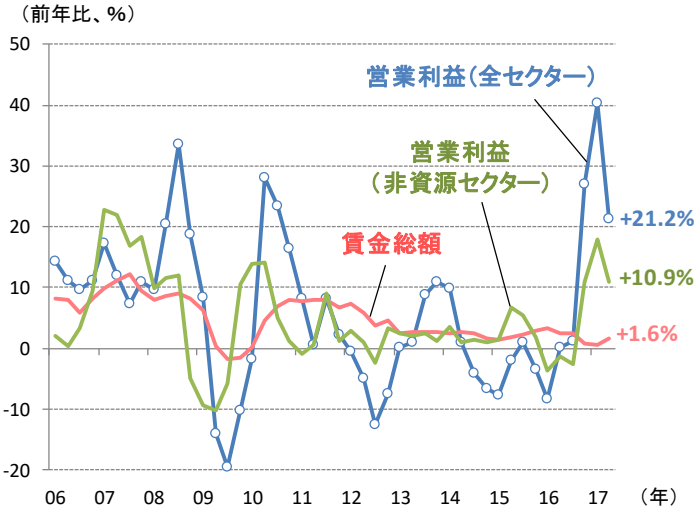
足元の豪州の雇用統計では直近2017年7月まで10カ月連続の雇用増(月平均2.8万人増)が続いているほか、企業収益も2017年4-6月期の営業利益は前年比で底堅い伸びが続いています(図2)。今後、底堅い雇用増や企業収益の改善が賃金上昇に波及し始めれば、将来の利上げに向けた地ならしが進む可能性があります。

図1:豪州準備銀行(RBA)の政策金利とインフレ率



(出所)豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)
(期間)基調インフレ率:2009年1-3月期～2017年4-6月期
政策金利:2009年1月1日～2017年9月5日
(注)基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。

図2:豪州の企業収益と賃金総額の推移



(出所)ABS (期間)2006年1-3月～2017年4-6月

●当資料は、説明資料としてレッグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものですが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。